

入学おめでとう、本科からさらに勉学と研究に励むみなさんの決意に敬意を表します。

本校では、「人づくりを通じて海づくり：海事・海洋 DX、情報や機械のシステム産業と地域経済に貢献するマリリゾート・コアキャンパスに向けた取り組みを進めてきました。

練習船代船として災害支援機能を有する「鳥羽丸代船」の建造、池の浦の鳥羽丸泊地の浮き桟橋の架け替え、学生寮（多文化交流生活寮、MELD）の計画、また、2025年の創基150周年・高専創立60周年記念事業を計画して基金を開設し、校祖近藤真琴先生の教育理念を踏まえて持続可能な環境づくりと学生支援をめざしています。

海運や物流、情報や機械システム産業の様相は、常に国際政治や経済社会の縮図、また世界は水、エネルギーや食料の問題に直面していきます。社会経済は、気候変動と環境変化、国際社会が織りなす紛争、物材の大量消費国の動向、あるいは金利政策などの影響を受けて大きく変動します。

COVID-19、新型コロナウイルス感染症の拡大は、情報、物流、ロジスティクスに対する人々の関心を高めたと考えています。感染症拡大は滞りを見せている一方で、世界は地球温暖化による気候変動に見舞われています。三重県は空港や新幹線もなく、昨年の雪や今夏の大雨や台風に対する道路交通や物流、電力供給にも今後の整備が期待されます。鳥羽港岸壁の耐震化も始まったばかりです。

本校で建造する練習船鳥羽丸代船は、災害支援機能を備えた練習船として海からの諸活動が期待されるとともに、同時に整備される浮き桟橋も、災害プッシュ輸送の4トンロングの車輛を受け入れることが可能な仕様になっています。

本校は海事と工業生産などそれぞれの産業領域へ DX あるいはGXの浸透に対応した基盤的設備の整備や教育の充実に努めていきます。5年ごとに策定される国の海洋基本計画、来る第4期では、脱炭素・DXに対応した海洋産業の競争力強化、ゼロエミッション船の導入、カーボンニュートラルポートの形成、また、自律運航船の実用化や港湾の電子化などが掲げられています。洋上風力や再生可能エネルギーの利用、資源調査に必要な海のドローン、水中ロボットの持続的な開発、安全と防災などが課題として対応を迫られています。これが我が国の状況です。さあ、新たな出発です。